

2005年度北海道地区GIS意識 調査中間報告

2006.3.24 北海道GIS・GPS研究会総会用

北海道GIS・GPS研究会 事務局長 藤原 達也

今回の意識調査の目的

【目的】

国土交通省国土地理院北海道地方測量部と北海道GIS・GPS研究会（道内へのGIS技術の普及促進を目指して1998年10月に設立）は、北海道企画振興部情報政策課の協力を得て1998年よりこれまで数十回に渡り全道各地区においてGIS普及セミナーを開催し、延3000名以上の行政関係者、民間企業の方々の参加をいただきました。こうした実績を基に2001年には、第1回目のGIS意識調査を実施し、212市町村全てから回答を頂きました。

そこで、現在市町村合併が進められ、一層の行政の効率化と広域連携におけるGISの活用が求められる中、道内各自治体へのGIS導入に向けた現状と各自治体が抱えている問題点の把握を目的として、国土地理院北海道地方測量部並びに北海道企画振興部IT推進室情報政策課のご協力を得て、道内市町村の関係者の方々に第2回目の道内市町村GIS意識調査を行う運びとなりました。

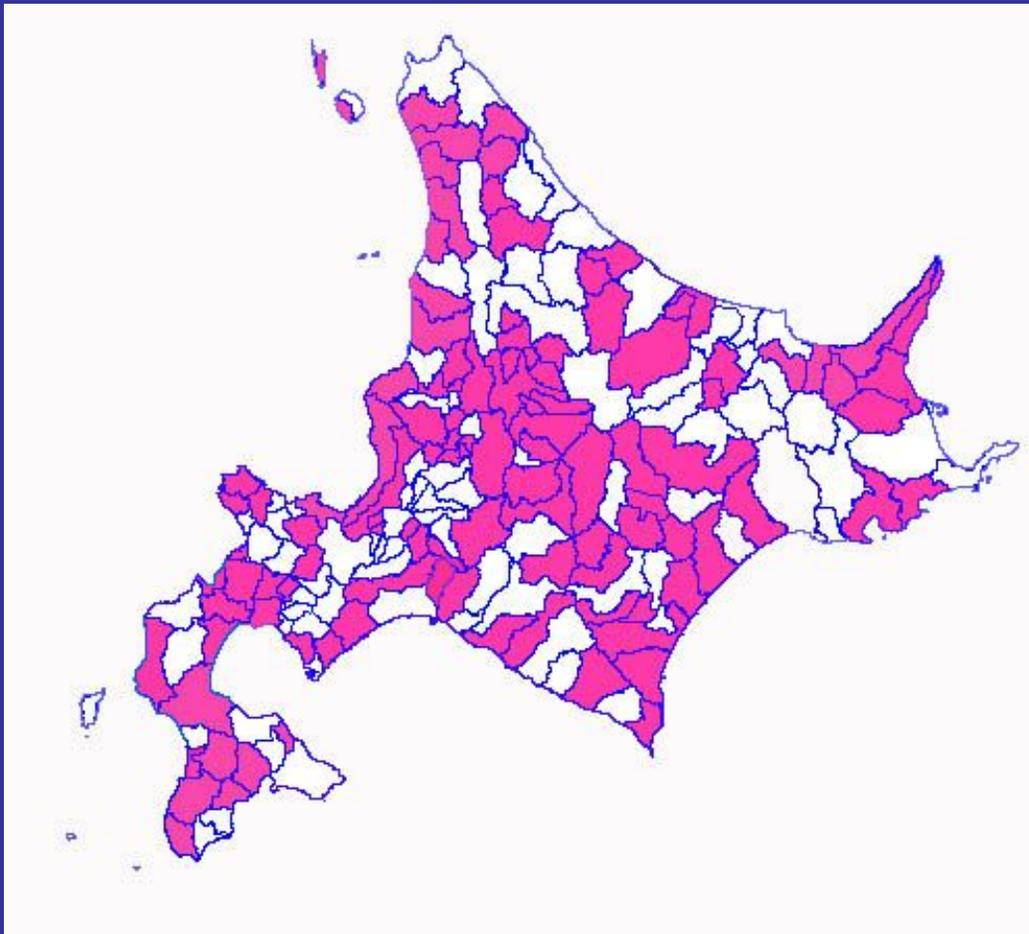
現在までの回答総数

最終的には全数回答を目指しておりますが、今回は中間報告ですので、現状の回答数での結果を分析したいと思います。北海道は前回調査を行った2001年から5年経過し、市町村合併によって212自治体から182自治体になっており、回答は現在113自治体から帰ってきております。

現在までの回答自治体

113 / 182 (62%)

回答された自治体の色分け

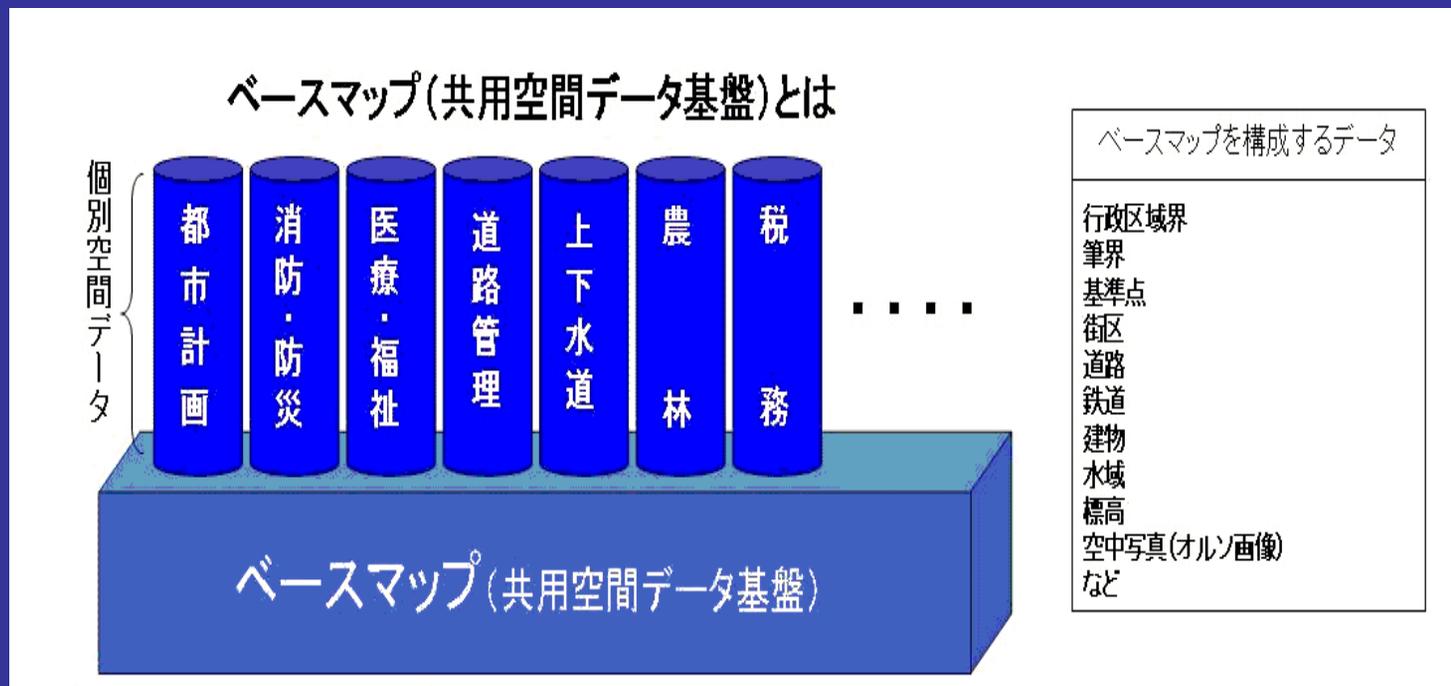


赤:回答自治体

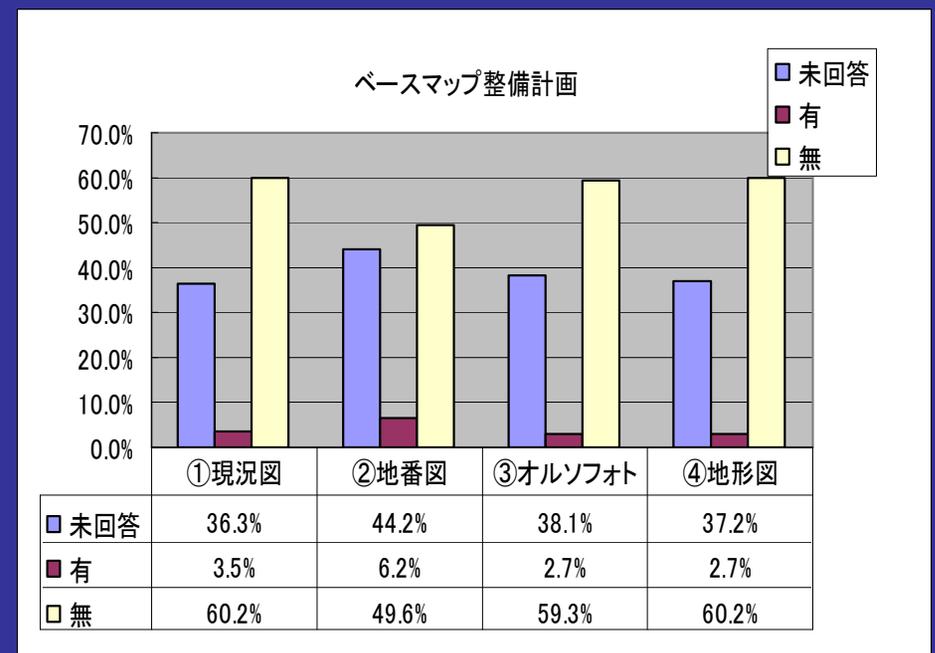
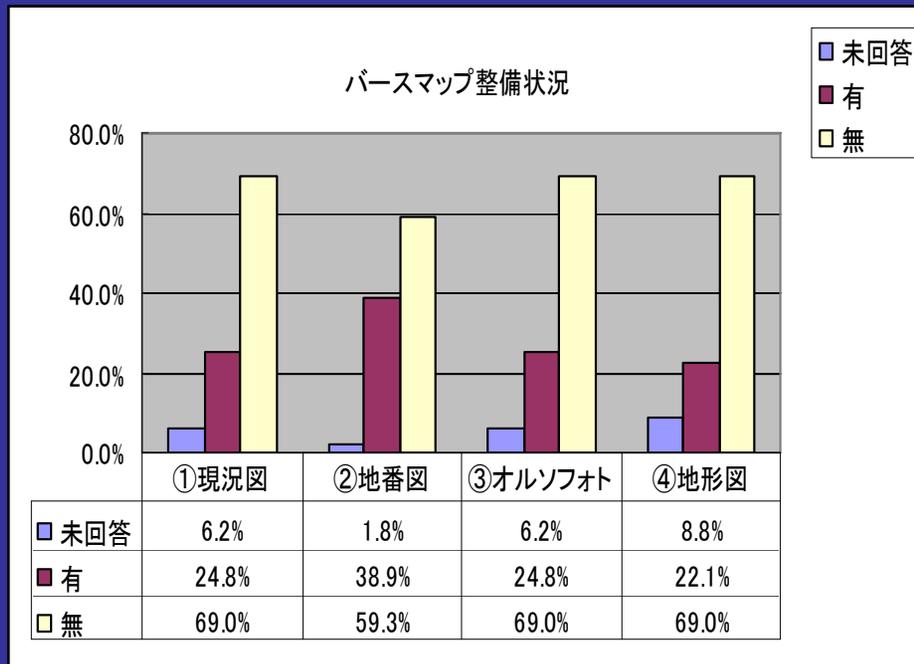
白:未回答自治体

ベースマップ(共用空間データ基盤) の整備状況と整備予定

統合型GISは、庁内LAN等のネットワーク環境のもとで庁内で共用できる空間データを「共用空間データ」として一元的に整備し、各部署で活用する庁内横断的なシステム(技術・組織・データの枠組み)です。共用空間データ基盤(ベースマップ)は、各部署が扱う専門情報の他に全庁で共通に利用する図形情報で、一般に現況図(都市計画図など)や地番図等をデジタル化したものを使う場合が多く、各管理情報の背景として使われております。このベースマップの整備状況と今後の整備予定についてお聞きします。



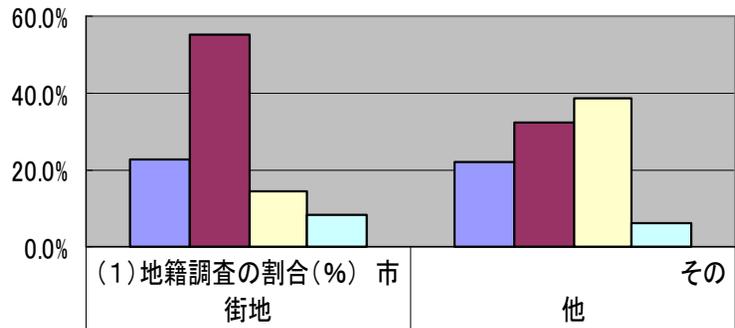
ベースマップの整備状況と整備予定



北海道は都市部以外の地域が圧倒的に多いという特色があり、一般的には現況図（都市計画図）や地番図をベースマップに使う場合が多いが、1/5000以上の縮尺の地形図を用いている自体も多いということがわかる。

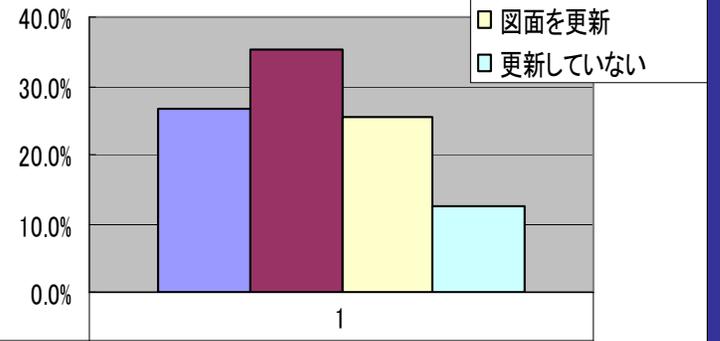
地籍調査の進捗と成果の活用

地籍調査の進捗



■ 未回答
■ 完了
□ 未完了
□ 未着手

成果の更新状況



■ 未回答
■ 地籍管理システム等
□ 図面を更新
□ 更新していない

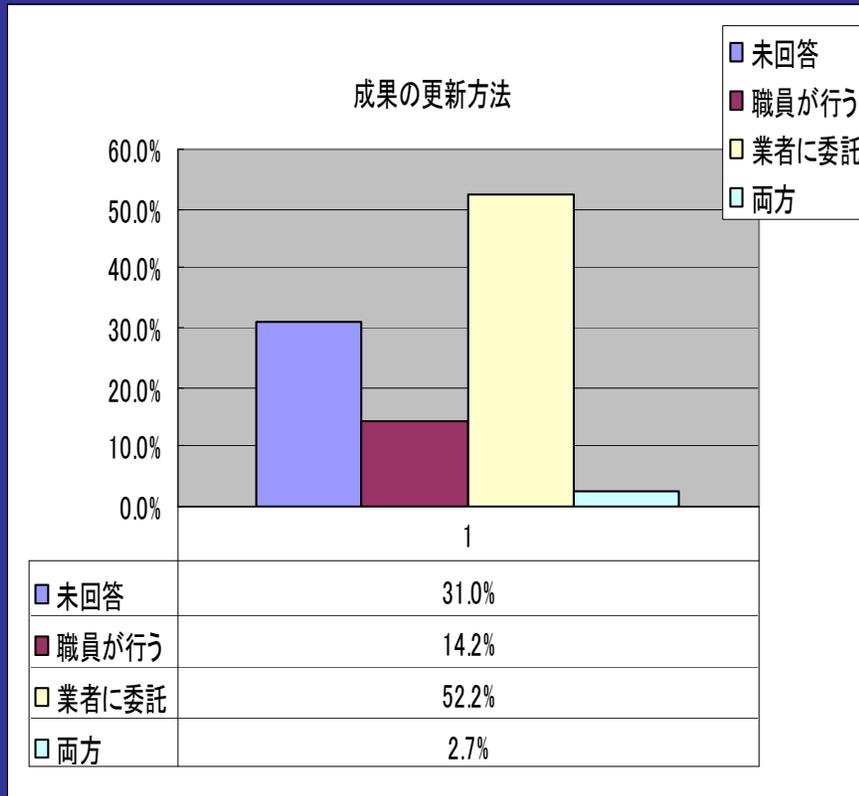
(1) 地籍調査は、全体の何割終了していますか。

市街地 約 (23.0%) その他の地域(22.1%)

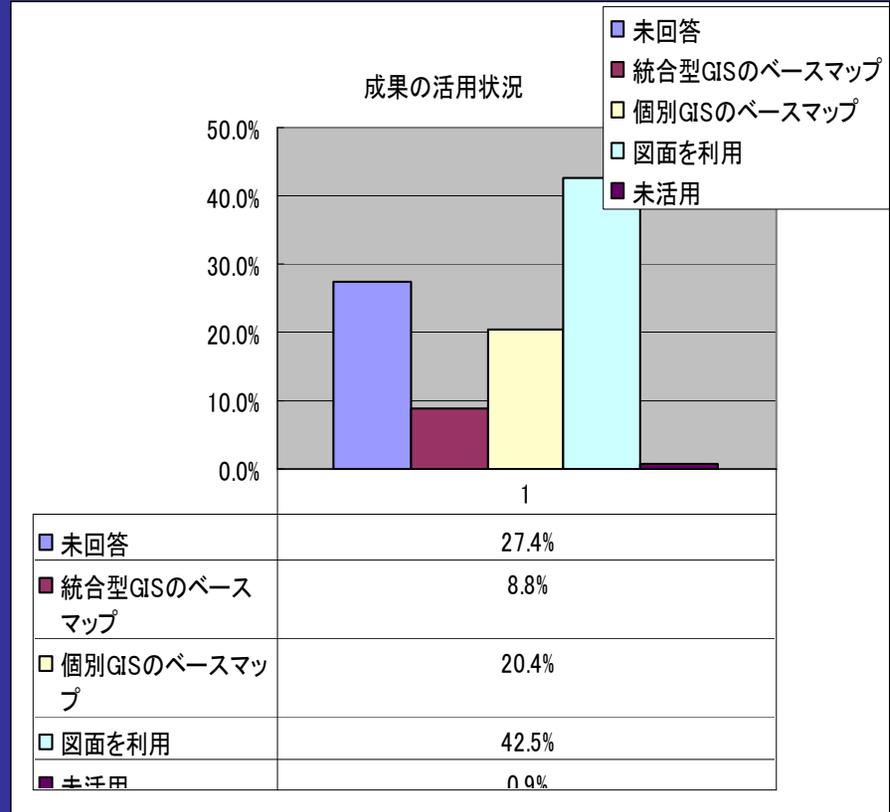
(2) 成果の更新状況

① 地籍管理システムなどを導入し更新している。② 地籍図や地籍簿・土地台帳などのアナログデータで更新している。③ 地籍成果は更新していない

地籍調査の進捗と成果の活用(2)



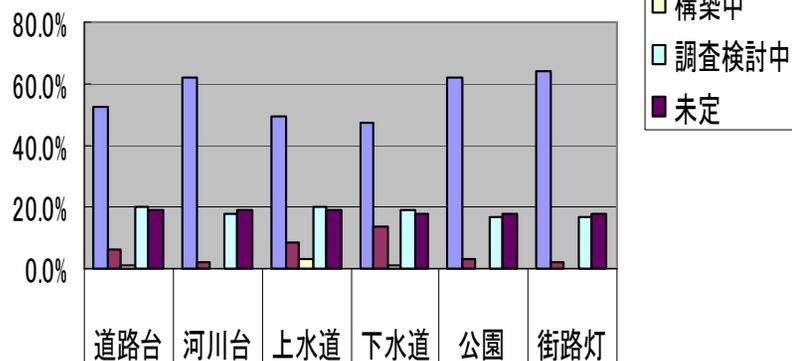
更新方法は、半数以上が業者に委託している。



図面を利用が約4割、個別GISのベースマップが2割、統合型GISのベースマップは一割弱という結果。

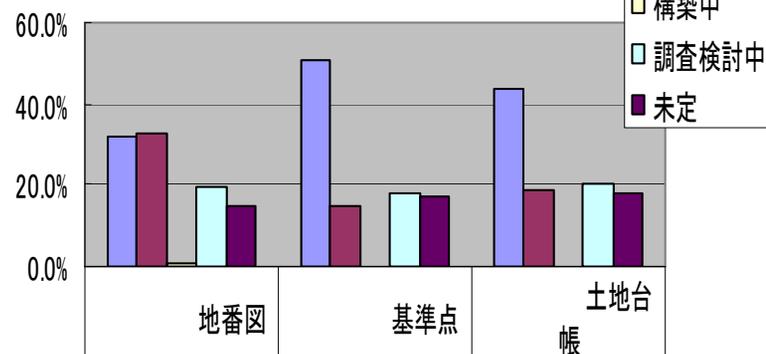
個別GISの整備状況について(1)

個別GISの導入状況



	道路台	河川台	上水道	下水道	公園	街路灯
未回答	53.1%	61.9%	49.6%	47.8%	61.9%	63.7%
導入済	6.2%	1.8%	8.8%	14.2%	3.5%	1.8%
構築中	0.9%	0.0%	2.7%	0.9%	0.0%	0.0%
調査検討中	20.4%	17.7%	20.4%	19.5%	16.8%	16.8%
未定	10.5%	10.6%	10.6%	17.7%	17.7%	17.7%

固定資産管理GIS

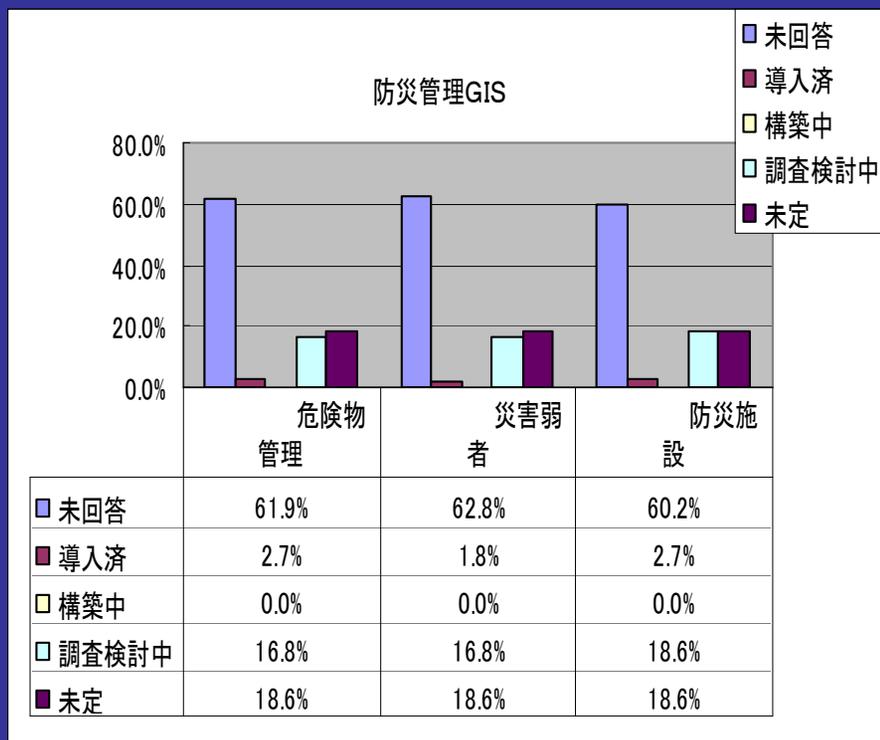


	地番図	基準点	土地台帳
未回答	31.9%	50.4%	43.4%
導入済	32.7%	15.0%	18.6%
構築中	0.9%	0.0%	0.0%
調査検討中	19.5%	17.7%	20.4%
未定	15.0%	16.9%	17.7%

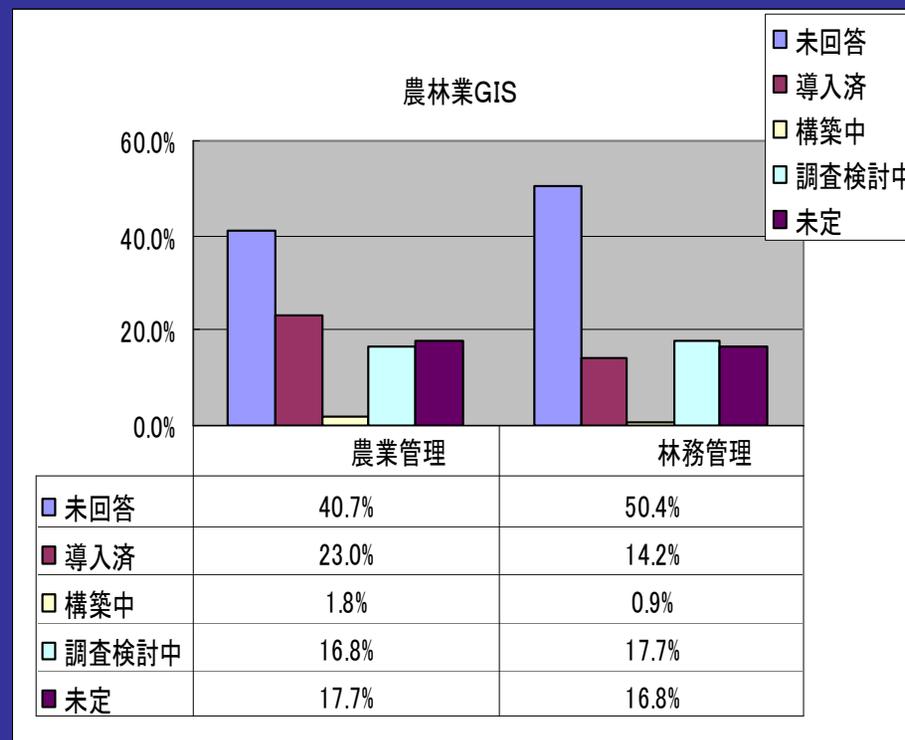
施設管理の個別GISの導入状況。
下水道、上水道、道路の順に整備
されています。

固定資産管理の土地情報管理に関し
て地番図・基準点・土地台帳に関しての
導入状況。

個別GISの整備状況について(2)

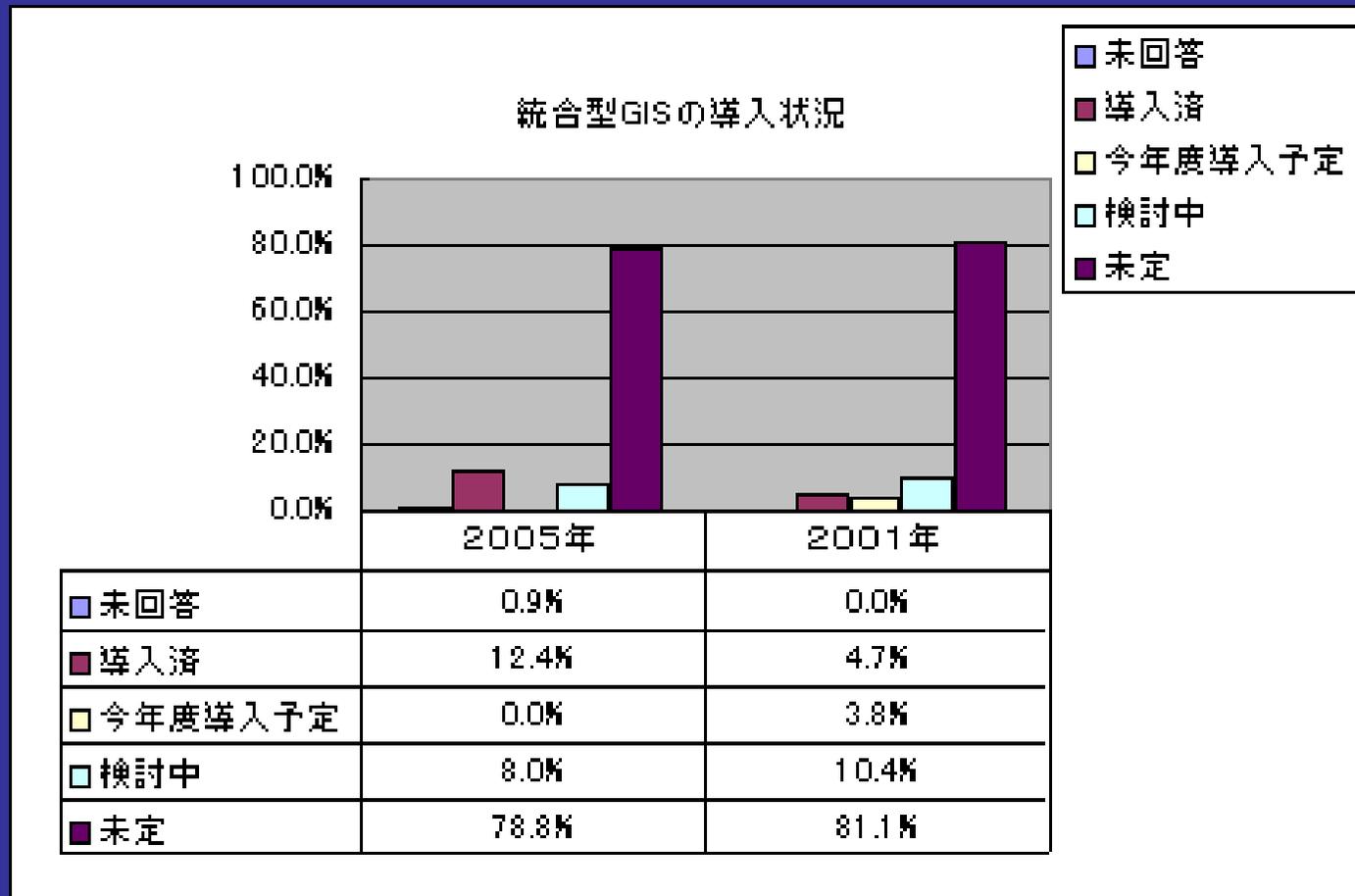


防災分野に関しては、未整備の地域が多いが、現在調査検討中の自治体も多い。



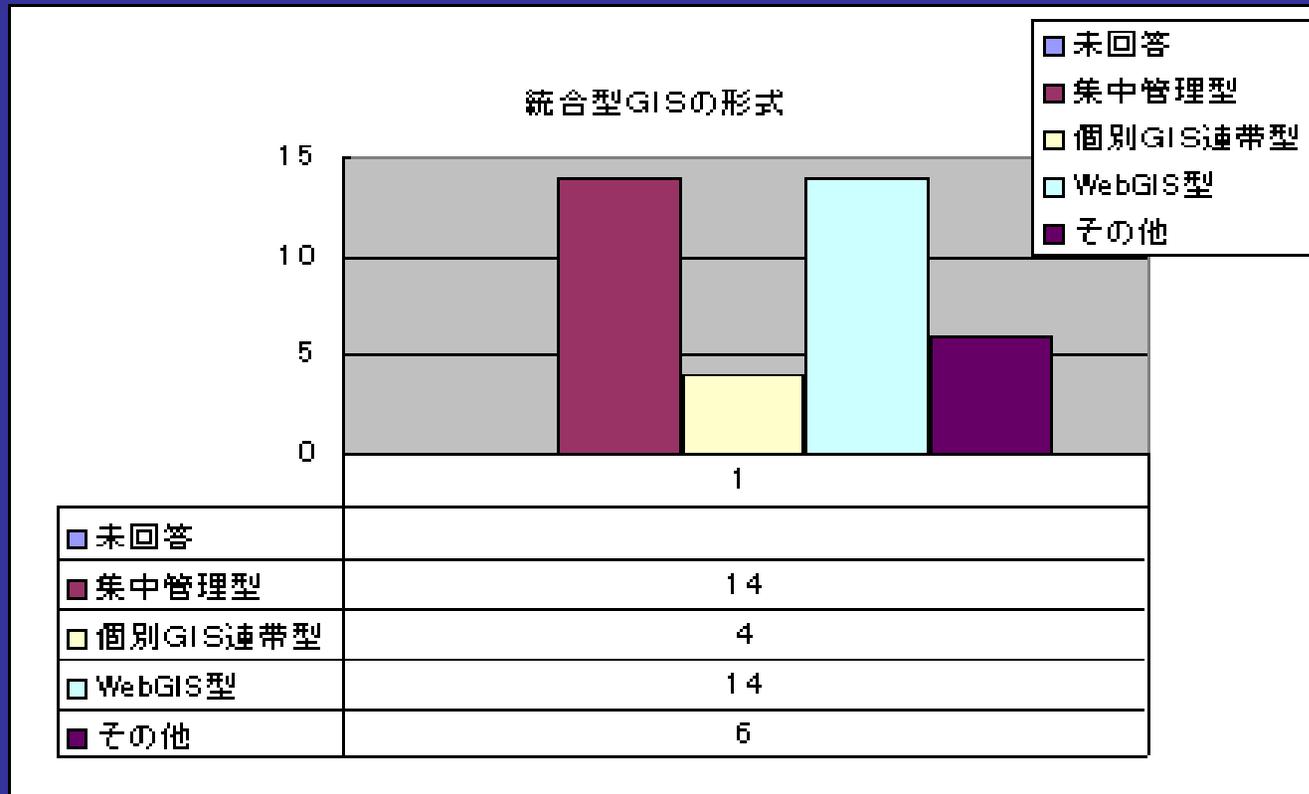
他の分野に比較して農業管理や林務管理に関しては整備が進んでいる。(北海道の特色)

統合型GISの導入状況



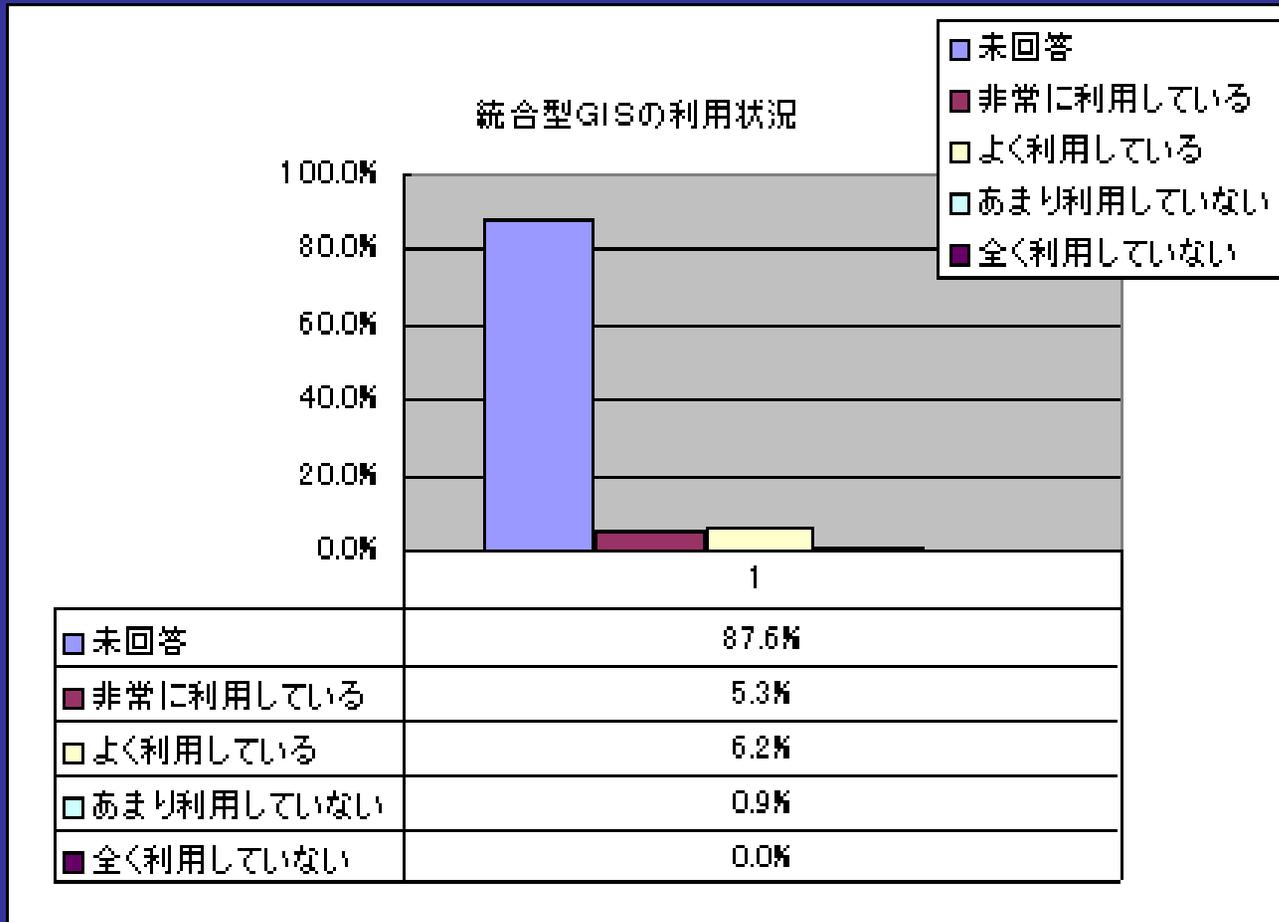
4年前に行った第1回目の調査と比較し、導入済の割合が徐々に増えています。

統合型GISの形式



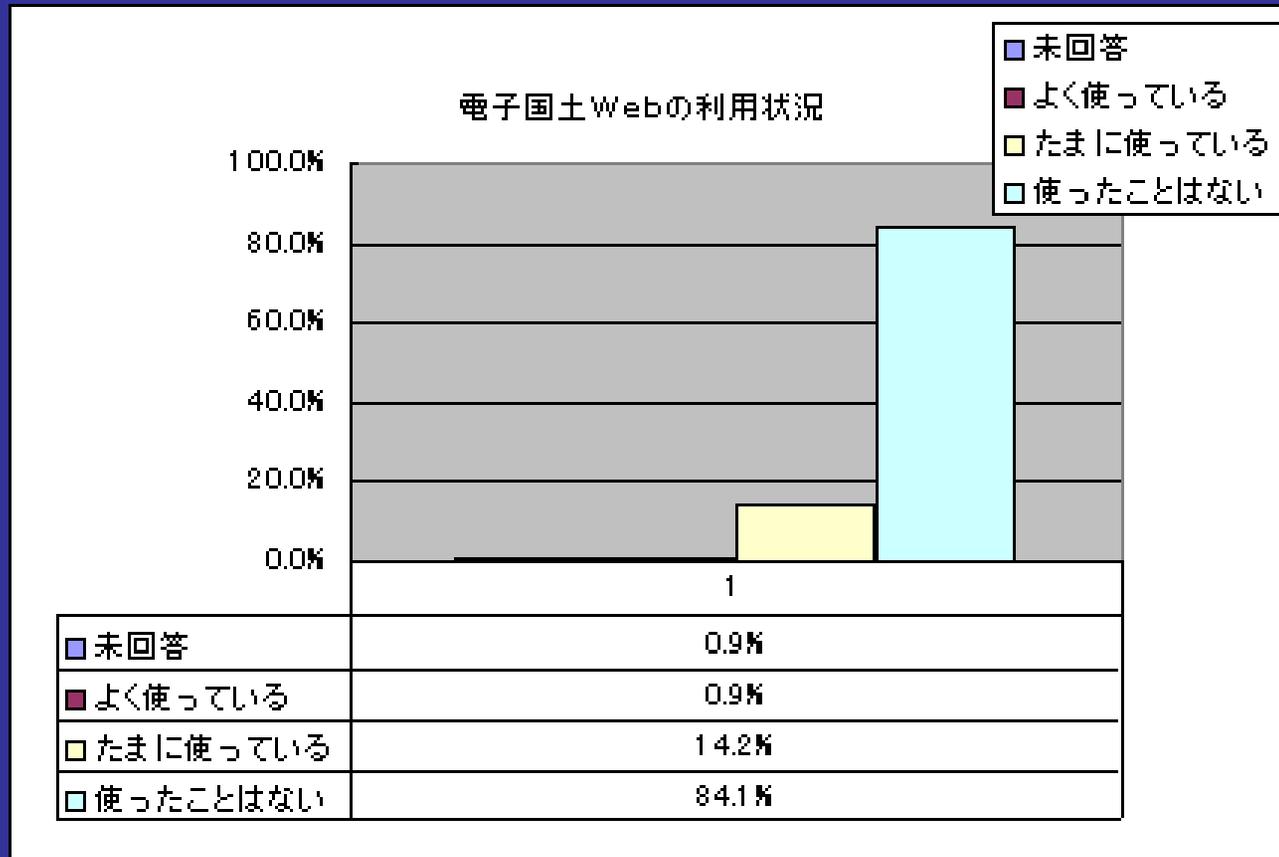
集中管理型(サーバで空間データを集中管理して、クライアントソフトで運用する形式)とWebGIS型(集中管理型サーバがWebサーバになっており、インターネットエクスプローラなどでGISが使えるシステム)が同数で一番多い。

統合型GISの利用状況



一度導入すると活用されているが、まだ導入していない自治体が9割近い。

電子国土Webの利用状況



国土地理院の電子国土Webシステムは、まだあまり利用されていない。

骨格的空間情報と今回の調査結果

●北海道は大都市札幌(人口182万人)を除いて、地方都市も殆ど30万人以下の小都市が多く、圧倒的に農地や山間部が多いという特色がある。その意味で、農林業への個別GIS活用や統合型GISの活用が比較的に進んでいることが今回の調査結果からもわかる。地方都市と農村地帯が混合している地域への骨格的空間情報の整備を行う事で、重複整備を避けて、より効果をあげるためには現状のGISの整備状況のきめ細かい把握を行う事が重要である。

●今後骨格的空間情報の整備を行う前に、同様に地域によって特色があるので、全国一律には行かないため同様の調査を行う事によって自治体の姿を分析し、利活用についても十分考えていくことが、利用促進にもつながると思う。

ご清聴ありがとうございました。

北海道GIS・GPS研究会

<http://www.kirari.com/gis/>

事務局長 藤原 達也

fuji@kirari.com